

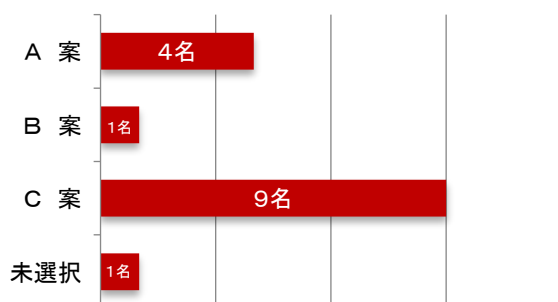
意見集約結果（心配事相談室部分抜粋）

(1)緑が丘地域のまちづくりの検討と推進について

イ 心配事相談室について

意見集約結果

- A 案…既存窓口でニーズ調査
B 案…補助金を活用してニーズ調査
C 案…相談室は設置せず既存窓口の周知



C案を選択した委員が最も多く、全体の半数以上（6割）を占めたため、相談室設置については見送る方向

次回協議会で最終決定

なお、C案に次いでA案が多いこと、「高齢者のニーズの把握」は「緑が丘まち協プログラム」の掲載項目でもあることから、相談室とは切り離して、今後意見交換を行っていく。

選択理由

【A案】

- ・包括支援センターか社協、市の相談窓口へとつなぐ役目なので、相談窓口設置はいらぬ
- ・市社協や包括支援センターをニーズ調査の窓口のみならず心配事相談室の構成要素とし、更にそのネットワークによって行政、関係機関・団体等裾野を広げる事が必要
- ・B案のように設置を前提に進めることは本末転倒
- ・補助金を活用すると設置する事が前提になってしまうのでリスクが高い
- ・ニーズ調査した上で設置するべきかを検討
- ・C案のような既存の窓口紹介はR2広報誌でも行っているの、少しでも地域の課題解決につなげるためのニーズを把握することが必要

【B案】

- ・専門家に依頼できるならできそうな気がする

【C案】

- ・既に相談する窓口は色々な機関・団体にあり、明らかなニーズが存在しないのでは
- ・関係方面相談窓口等の活用・PR
- ・専門の相談機関を紹介する、緑が丘地区の便利なサービスを紹介するなどはどうか
- ・R2広報誌の“困ったときの相談窓口”を紹介したり、既存の相談室を内容に応じて紹介していくことでは（現に高齢者の健康は包括センターがある）
- ・まち協独自の相談室設置は人材の問題もあり難しいので、既存の各種相談窓口を紹介し、一旦事業終了とする案に賛成
- ・相談室を設置するとしても人の問題、場所・金の問題、どんな内容や事など課題も多く難しい
- ・設置に当たっての予算・人材確保が困難
- ・複数年かけたが良い方向が見つけられなかった現状を考え、一度止まって検証してはどうか
- ・令和元年より意見交換を続けて時間がかかり過ぎる当初よりニーズ調査には不要の立場にある対話も必要だが、どう行動するかを考えたら良い
- ・コロナ禍で相談を受けることが難しい
- ・解決に至るまでに困難がある
- ・設置について反対ではないが、“設置の必要性”も含めたニーズ調査が必要だと考えており、B案は難しいと思う（A案は課題として挙げられているとおり）